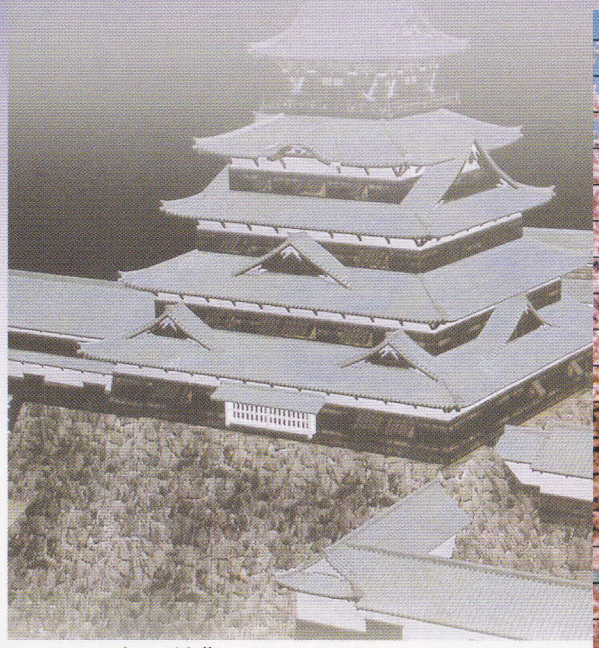
お城だより

No. 11
2006.11.1



CGによる福岡城復元

市内六二四〇名の子供たちが貼り絵で作成した、夢の福岡城完成予想図イメージ

10月6日に行なわれた観月の宴に1,500名!!

天守閣デザイン画「よみがえれ幻の福岡城天守閣」
九州産業大学教授　佐藤正彦著より

夢ふくらむ福岡城

福岡青年会議所　理事長　小池　勝利

「福岡の宝物」福岡城を中心に福岡文化をより発展させたい、また、(社)福岡青年会議所らしい大胆な発想をもとに福岡城址を有効利用できないか、その様な思いで本年度は「夢動力ふくおか推進特別委員会」新開裕司特別委員長を中心に、鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会の皆様と一緒に活動させていただいております。

私たちの住む福岡市には、福岡、博多という二つの名前を持っています。しかし、福岡市の文化は何?と聞かれてすぐに思いつくのは、博多織、博多にわか、博多どんたく、博多ラーメン、そして世界に誇る祭りである博多祇園山笠。圧倒的に博多文化のほうが多いのではないかと思います。それでは、福岡文化はどうでしょうか?福岡に住む私たちでさえも、すぐには答えられないのが実情です。福岡城址という歴史的な遺産があるにもかかわらずです。

福岡城址、私が語るまでもなく、この地は一六〇七年の福岡城築城完成を皮切りに、福博文化の交流拠点として栄えてきました。「平和台」と名づけられたこの地は、福岡国際マラソンなどにみられる陸上競技の拠点や市民に愛されたプロ野球球団に伴うスポーツ文化の拠点として、重要な役割を果たしてきました。福岡城址は、今日に至るまでの福岡が育んできた文化そのものとも考えられます。しかしながら、四十八万二千平米といわれるこの広大な敷地は現在、桜の花見で賑わう以外は閑散とし、ウォークラリー等のスポーツ企画でも、集合場所としてしか使われていないように見えます。

博多文化と並ぶ福岡文化の創造。それは、歴史ある福岡城址を中心とした福岡文化の復活なのです。天守閣が存在していなかったのなら、今から新築してもいい!そのくらいの大きな夢と情熱を持ち、市民が一丸となって福岡の文化を創造していく気持ち、また、福岡、博多が共に競い合い、共に尊重しあうことこそが、「わがまちふくおか」の発展と活性化につながるのだと私は信じています。福岡城址は福岡のシンボルとして、それを実現するために大変重要な役割を担っているのです。

第四回　筑前六端城（益富城跡）

母里市兵衛忠一

麟翁寺見学風景

長崎街道筑前六宿　飯塚宿、内野宿　探訪

閃光一瞬、稲妻としのつく雨の中、日銀前を出発、飯塚では、商工会の橋本様の案内で、昔、川が流れていたと言われる商店街、アーケードを歩き、カラクリ時計を見て、納祖八幡、太養院では、寺宝の十二観音像まで拝見させていただき、ご本人は、病み上がりの体で汗びっしょりの熱弁にてのご説明誠にありがとうございました。

麟翁寺では、雨もあがりご住職の丁重なるお話に皆、聞き入り、うなずいていました。その足で益富城に登り、二の丸、本丸と、足元の悪るい中、蚊に追われての確認でした。当時の侍達は、相当の苦労をして築城し、非常の場合を想定して守りを固め見張りをして居たのだと思います。でも、頂上からのながめはすばらしいものでした。

碓井郷土館では、又兵衛の残した槍を見て、内野宿では、かなりの雨の中を大町様の熱心なご案内で宿場のようす、見上げる様な大銀杏、太郎佐衛門の墓石、本陣跡まで、すべて検分を終わりました。筑前六宿と六端城が、当時の黒田藩にとっていかに重要な役割を持っていたかをうかがい知る事が出来ました貴重な思い出となりました。これも黒田公と太兵衛公のご縁が結んだ四百年ぶりのめぐり逢いと感謝申し上げます。岡部様、野田様、他幹事様には、誠にご苦労様でした。お見事!!

9月16日（土）　第４回　筑前六端城（益富城跡）長崎街道筑前六宿『飯塚宿、内野宿』探訪日程

参加者46名

天神・日銀前 8：15ご集合 8：30ご出発 ― 八木山バイパス ― **飯塚宿** 9：30～10：30 ～太養院～

～飯の山（御茶屋跡）～構え口 10：30～11：00 ― 昼食 11：30～12：10 ― **麟翁寺** 12：30～13：20（休憩）

益富城跡（タクシー） 13：30～14：20 ― 黒田武士 14：30～15：00 ― 鍬の溝（車窓） ― 禅照寺

碓井郷土館 15：30～16：00 ― **内野宿** 16：30～17：30 ― 冷水峠（トンネル）経由

針摺経由 18：20 ― 太宰府IC ― 都市高速 ― 天神・日銀前 19：00

福岡城こぼれ話

秋の夜長にゾーッと ―お綱門（1）―

大隈 和子

今回は知ってる人は知ってる、知らない人は知らないお話です。そんなこと当たり前やろうもん。あっ、そうです。が、まっ聞いて下さい。げなげな話。

江戸時代の初めのころ、黒田さんの二代目忠之公の時です。

参勤交代で江戸へ行っての帰り、忠之公は大坂で一人の遊女、采女と馴染みになり、身請けして国元に連れて来ました。しかしお城にはお秀の方という第二夫人がいる（正妻は幕府への人質の意味で江戸屋敷に住まねばならなかった）。采女は身分も低いし、いろいろもめごとの種になっても困ると、家老の栗山大膳は忠之に采女を手離すよう諫めました。そこで仕方なく忠之は、家臣の浅野（あるいは麻井）四郎左衛門に下げ渡しました。（女は物じゃないゾー。品物のようにこっちがダメならあっちって、人権はないのかっとフェミニストから抗議の声。まあまあ江戸時代のお話ですから）（これからもフェミニストさん、ムッと来そうな内容です。）

四郎左衛門にはすでにお綱という妻がいて二人の間には一男一女の子供も授かっていました。四郎左衛門は美男で、お綱は由緒ある家の出ながら醜女であったということですが、采女が来るまでは、仲睦まじく暮らしていました。それが、采女が来てからは、殿様から頂いた女性だからと大名町の本宅に采女を住まわせ、お綱と二人の子供は、下僕の善作を付けて馬出の下屋敷に移しました。

始めの内は下屋敷にも来ていた四郎左衛門も采女に夢中になるにつれて、だんだん足が遠のいてしまい、終には、仕送りも絶えて衣食にも困る有様。

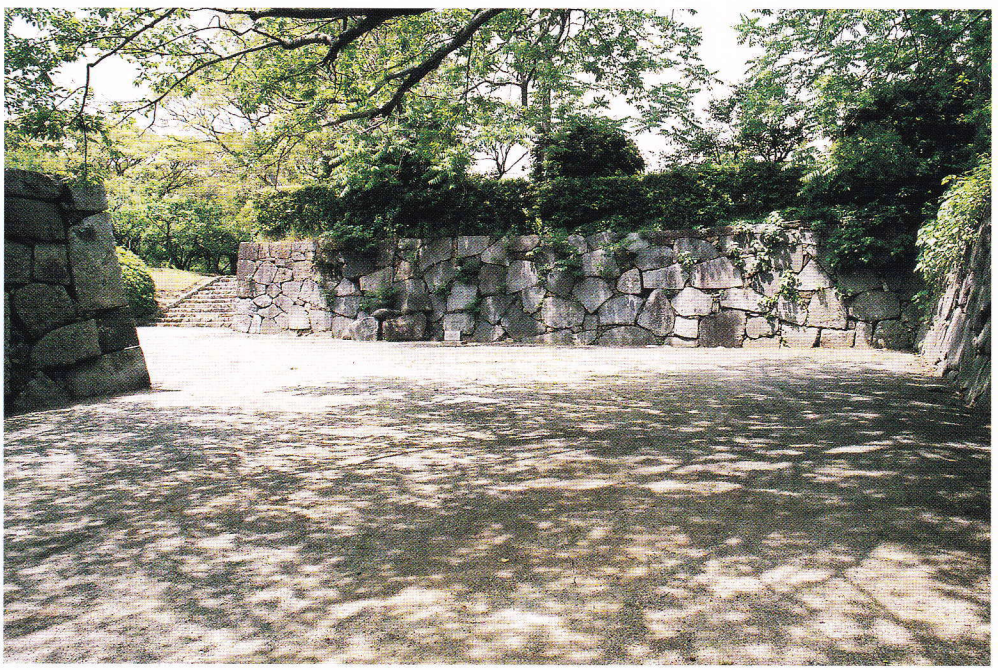
寛永七年（一六三〇）三月二日、お雛祭りの前日、その日も節句を前に、準備するお金もありません。思い余ったお綱は、善作を使いに、本宅へ節句の祝いを貰いにやります。しかし夫（一説には采女）はつれない返事。お綱を哀れに思い、主に失望した善作は、遺書を残して箱崎松原で首をくくってしまいます。その知らせを聞いたお綱さん、積年の怨みが爆発、二人の子供を刺し殺し、その首を布に包んで腰に下げ、薙刀、小脇に大名町の本宅へ。

しかし夫はお勤めでお城へ行って留守。家にいた明石彦五郎という浪人は、ただならぬ様相で飛び込んで来たお綱を、とっさに斬り付け、返り討ちに。それでも女の執念、深手を負いながらも、お綱は夫のいる城内へ。薙刀を杖に、必死でお城へ上っていったのですが、城門にたどり着いた所で息絶えたというお話です。

その後、お綱さんが手をかけたところで息絶えたという門は「お綱門」と呼ばれるようになり、その門の柱に触ると、高熱にうなされるといわれ、お綱さんの執念が祟ると恐れられたということです。

この話にはいろいろ後日譚があり、また"お綱門ちゃ、どこね"という問題、お綱門の行く末、お綱さんのお墓があるとかないとか、そのお話を次回に、と思います。

（歴史研究家）



福岡城扇坂門（お綱門と言われる一つ）

髪ふりみだしてたどり着いたお綱門

博多に強くなろうシリーズ
西島伊三雄氏イラストより

福岡藩江戸屋敷めぐりに参加して

小池　玲子

目覚める前に喜びがわくという何ともうれしい旅の始まりでした。

東都に於ける黒田家の上屋敷跡、中屋敷跡と下屋敷跡は、それぞれ現在は外務省、財務省又は清澄公園になっており、悲しいほどにわずかに残る石垣がその名残りを見せておりました。幕末までは、東京駅前に外桜田の霞ヶ関一帯に広大な土地を有した上屋敷、中屋敷跡は赤坂溜池に有し、今、話題の衆議院宿舎の建て替え工事が行われている場所、この一帯は黒田山と呼ばれ江戸時代には、とても風光明媚な高台に屋敷が建っていた様です。現在この一角に黒田家の御家族の方々が在住なされておられます。又、下屋敷は白金や渋谷に有し、その他多くの領地を拝領されたとのことで幕府の中での筑前黒田大大名に対する絶大な優遇を受けておられたようです。

夕方、池袋のホテルで黒田長高様をお迎えして太田道灌公の後裔の方、江戸城築城ＮＰＯの会員三名、福岡組十七名で会食いたしました。石井理事長は、今夜の会合がプロジェクトＸの「その時、歴史が動いた」第一回会合になることを希みます。と御挨拶をなされましたが、熱き思いが一致して再に力を得ました。明くる日、東京国立博物館前庭に福岡藩江戸上屋敷跡に残された威風堂々とした鬼瓦と、その横に堅牢な門が建っており、武士が乗馬したまま駆け込んだであろう程の高さの往時の風格そのままの大手門が残されていました。その後、皇居内の和田倉門入口で東京のＮＰＯの会員の方々三十名程集まり、各専門の方から江戸城に関する雑誌や資料、設計図等を戴き説明を受け、天守閣予定現場まで登っていきました。すでに四層になる予定の台座が出来上がっています。

心地よい秋風に吹かれながら、古木の奥に余り手入れが行き届かない雑木林の中から、二本差しを腰につけたもののふが肩をいからし出でてくるまぼろしが見える様で、この街は、やはり武士の魂の上に現在が存在するような気がしました。東京は森や林や緑がたくさん残され徳川三百五十年その後の重い歴史の上に現在の驚くべき発展、超高層ビルの林立が高らかに聳え、さすがの景観に圧倒され、福岡も今こそ戦後六十年で失った古き良きものの復興の精神に目覚め、昔の福岡城を中心とした武士と商業で発展した街、福岡城の再建の「時」が熟した感を強く持ちました。今のままでは余りにも牛歩のあゆみを目の前に突きつけられた思いです。もっと具体的な計画を一本筋を通して、何としても福岡城の再建をする。凛とした天守閣を眺め、福岡市民であることを誇りとし、全国の人々に「福岡には素晴らしいお城が再建されたよ。」と云われる日が一日も早く訪れることを切に願います。この旅を企画して下さった方々、参加なされた方々に深くお禮申し上げます。

福岡藩江戸上屋敷の鬼瓦の前で

「江戸城再建を目指す会」理事長　小竹直隆氏より交流懇親会のお礼状が来ました

黒田長高様、江戸城築城の祖太田道灌の末裔太田資暁様や石井理事長と共々に記念写真を添えて送って来ました。

”播磨の黒田武士まつり“を訪ねて

島野　均

馬上姿もりりしい黒田長高公

「播磨の黒田武士顕彰会」は、姫路生まれの戦国武将黒田官兵衛・長政父子とその家臣たちを広く顕彰するために発足された。顕彰会の第一弾として、第五十七回の”姫路お城まつり“を迎えて「黒田官兵衛・長政・黒田二十四騎里帰りパレード」が行われることとなり、当福岡城市民の会から岡部事務局長・小生が播州の地を訪ねました。葉月、猛暑の日の連続でしたが、播磨の市民から「官兵衛さん」の呼び名で広く親しまれている藩祖に、市民の温かい声援で盛り上り、五日の最高気温を遥かに上回るフィーバー振りとなりました。播州の人から本家とみられている筑前福岡に居する者にとって、羨望と寂寥感を交互に味わされる一日でした。

二十四騎のパレードは、大手門大通りから姫路城へ直進し、官兵衛如水公に東京から駆け付けられた十六代ご当主長高様が長政公に姫路獨協大学長が扮し馬上に揺られ、母里太兵衛、後藤又兵衛など、名だたる猛将二十四騎には獨協大学の学生たちが務め、重い甲冑に汗だくだくの行進で沿道を埋めた播州市民の熱い声援に応えました。夜はご当主長高様を囲み参加者全員の慰労会が催され、夜遅くまで反省を含め来年への取り組みに沸騰した声に包まれました。翌六日は、長高様のご帰京に午後二時過ぎまで時間があり、私共二名が随行して白鷺城を訪ねました。外国人が目立ち、観光客で混雑した豪壮で優美な城郭と天守閣は、日本の歴史と伝統・文化を世界へ発信するに相応しい遺産と思います。福岡にも鴻臚館・福岡城と素晴らしい文化遺産があります。

鴻臚館の整備は現在調査が進んでいますが引き続き福岡城を整備し、天守閣実現へと導き、立派な歴史と文化を明日の観光資源とし、次の世代へ福岡の財産として遺してあげようではありませんか。こんな”のぞみ“を巡らしながら一四時二十九分発の”ひかり“で播州姫路を後にしました。

官兵衛如水公の甲冑を召された黒田長高氏（右側）

姫路城より播磨の黒田武士顕彰会の皆様が福岡城へ

姫路でお世話になった幹事神澤輝和様をはじめ十数名の方々が去る十月七～八日にかけて来福されました。

黒田家ゆかりの「崇福寺～東長寺～福岡城～光雲神社～福岡市博物館」で日本号の名槍をじっくりと見て、それから太宰府天満宮内の如水の井戸そして九州国立博物館まで、黒田如水公の遺蹟めぐりをされた。当会からは島野・萩野・岡部がご案内方をつとめた。

太宰府天満宮　黒田神社　如水の井戸の前で

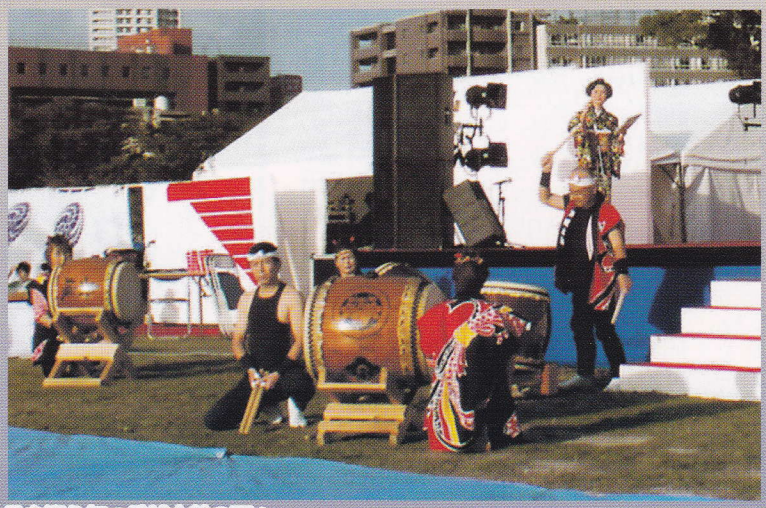
鴻臚館・福岡城　観月の宴

平成18年10月6日(金)

舞鶴公園西口広場において

満月と共に大盛裡に1,500名の参加者で鴻臚館跡に特設舞台を設け開催!!

出演者235名で彩る大舞台は
読売新聞西部本社提供を頂きました。



月を迎え打つ岳城太鼓の面々

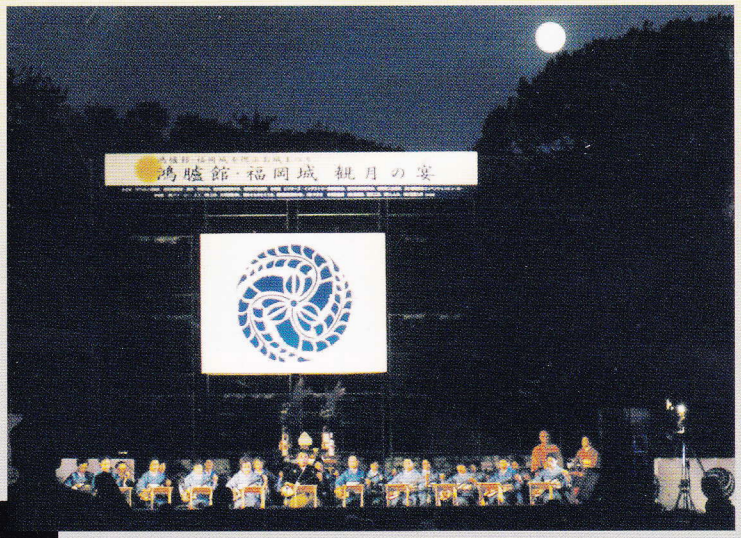
月光一瞬　古武道柳生流柳心会の方々

煎茶で月を待つ売茶抗席

かぐや姫が捧げる大盃　菊酒・乾杯のあいさつの後、順次盃が廻る

客席を廻る石井理事長

福岡藤本会・秀翠美社中の演奏



華道吟　中島澄子さんと中村燿岳さん

コーラス「福岡青少年音楽の翼」のみなさん

月に舞う　花柳流月須美会の方々

名月や叢雲の中見えかくれ　世のつれづれを重ね合わせむ　石井幸孝作

幻の三下り
博多節を舞う 五條流 五條雅千花さん

月に奏でる　尺八・新都山流　琴 筑紫会

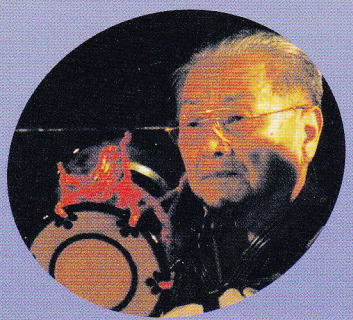
「観月の宴」協賛並びに特別協賛　誠にありがとうございました

協賛会社（五十音順）

- （株）アイ・ピー・エス
- （株）三共
- 大洋装備（株）
- 博多きものきろう会
- 福岡警備保障（株）
- （株）やまき

特別協賛会社（五十音順）

- 建友工業
- （株）しんわ



峰松老も月に合わせて鼓を！

INFORMATION

新規会員名簿（6／24～10／20入会分）

正会員（団体） 3団体

（株）ジーケイ
（株）タカクラホテル福岡
大洋装備（株）

正会員（個人） 4名

川添千恵子
冨田幸一
仲上紀政
馬奈木友道

一般会員（団体） 1団体

フレンドカンパニー

一般会員（個人） 29名

井上高顕
岩見和千美
江川万代
大島史郎
大田賀丈
大溝一水
香月泰子
勝田俊雄
神田典子
菊池博則
清岡佳子
粢原紀江
粢原正富
合屋智美子
塩出峰生
田中みどり
棚町
種田静江
中野多美子
蓮山理子
福田節子
古川美紀
松本学
馬奈木ヤス子
山田悟
山本道子
吉永慎也
米倉賢次
脇野豊子

更新会員名簿（6／24～10／20入会分）

正会員更新会員（団体） 1団体

（株）都市再生研究所

正会員更新会員（個人） 2名

中川恒彦
高瀬由紀子

一般会員更新会員（団体） 2団体

（有）セブンプリンティング
（株）しんわ

一般会員更新会員（個人） 23名

青井比紗江
今泉康秀
上田哲也
上野寛
小田哲也
新戸順子
種田静江
永渕和子
中村昭子
野上みどり
橋本雄司
原野勇二
福田節子
古田鷹治
古山昭
松嶋すずな
松野文校
松本学
三木和信
毛利英助
山下久雄
湯川美恵子
吉田誠

下の橋大手門　復元

下の橋大手門の修復復元、及び桝形の整備を、平成十八～二十年度に行います。復元に際しては、古写真・絵図・発掘調査等の成果を活かしながら、学術的な検討を行い、文化二年（一八〇五）の姿にもどすこととしました。

平成十二年の被災当時は一層の門でしたが、今回の復元によって、間口約7m、高さ約12・8mの二層櫓門となります。作業工事事務所が出来ました。

福岡城跡環境整備基本構想より…福岡市教育委員会

下の橋大手門（復元図）

黒田家ゆかりの史跡探訪に参加して

謹啓　少生、このたび貴社の「黒田藩六瑞城と長崎街道筑前六宿」の第二回目に参加させていただきました。先人が残して下さった史跡を我々～子～孫を守り、伝承することは大切なことと存じます。

これらを通じて社会に貢献することも、我々の責務と思います。このツアーを企画実施して下さった、貴社に感謝申し上げるとともに、福岡城市民の会の岡部局長様を始め支援して下さった皆様に深く御礼申し上げる次第です。

終わりになりましたが、今後の貴社及び市民会の益々の御活躍とご発展を願いまして御礼の言葉にかえさせていただきます。

謹言
塩出峰生

毎回満席でご参加本当に有難うございます

オリジナルキャンペーン曲
夢ふくらむ福岡城

作詞／夢動力ふくおか推進特別委員会メンバー一同
作曲・編曲／山本成宏

1. 僕らの住んでる　このまちに
　いつも変わらず　見守っている
　春の美空に　咲き誇る
　サクラのお城　福岡城
　勇壮誇る　その姿

2. 僕らの住んでる　このまちに
　むかし　むかし　あったそうな
　遠い異国の人たちを
　こころで迎えた　鴻臚館
　いにしえ人の　夢の跡

3. 僕らの住んでる　このまちに
　響きわたった　応援歌
　野球　マラソン　大歓声
　こころに残る　名勝負
　思い出　はるか　平和台

4. 僕らの住んでる　このまちに
　今も夢見る　天守閣
　大きなロマンの　旅立ちに
　かなえてみたい　いつの日か
　夢ふくらむ　福岡城

お知らせ

【福岡城天守と光雲神社】（荻野忠行著　梓書院）

来年の光雲神社西公園鎮座百年を記念して明治からの光雲神社について書かれている。あわせて福岡城天守論についても、長政公の遺言・忠之公の「御代日記」などを史料に従来の福岡城天守論との比較について言及している。価格1500円。

市内書店にない場合は電話・FAX 092-806-6749まで。

編集後記

「お城だより」の発行号数が二桁になりました。

11号をおとどけするにあたり、会員の方々のご協力によりまして多くの投稿をいただきました。編集する者にとってこんなに喜ばしいことはございません。これを機会により多くの方々のご投稿をお待ちしております。

また、当会の運営、開催のイベント等に関しましてご意見やご注文がございましたら、忌憚のないお声をぜひ是非お聴かせ下さい。

これからも初心を忘れず精進して参ります。

（広報部　N・I）

編集・発行／鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会
住　所／〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-12-15　読売福岡ビル7階
TEL 092-716-8238　FAX 092-716-8254
HPアドレス　http://fukuokajokorokan.npgo.jp/
E-mail　fukuokajo@tos.bbiq.jp
デザイン・印刷／（有）セブンプリンティング